

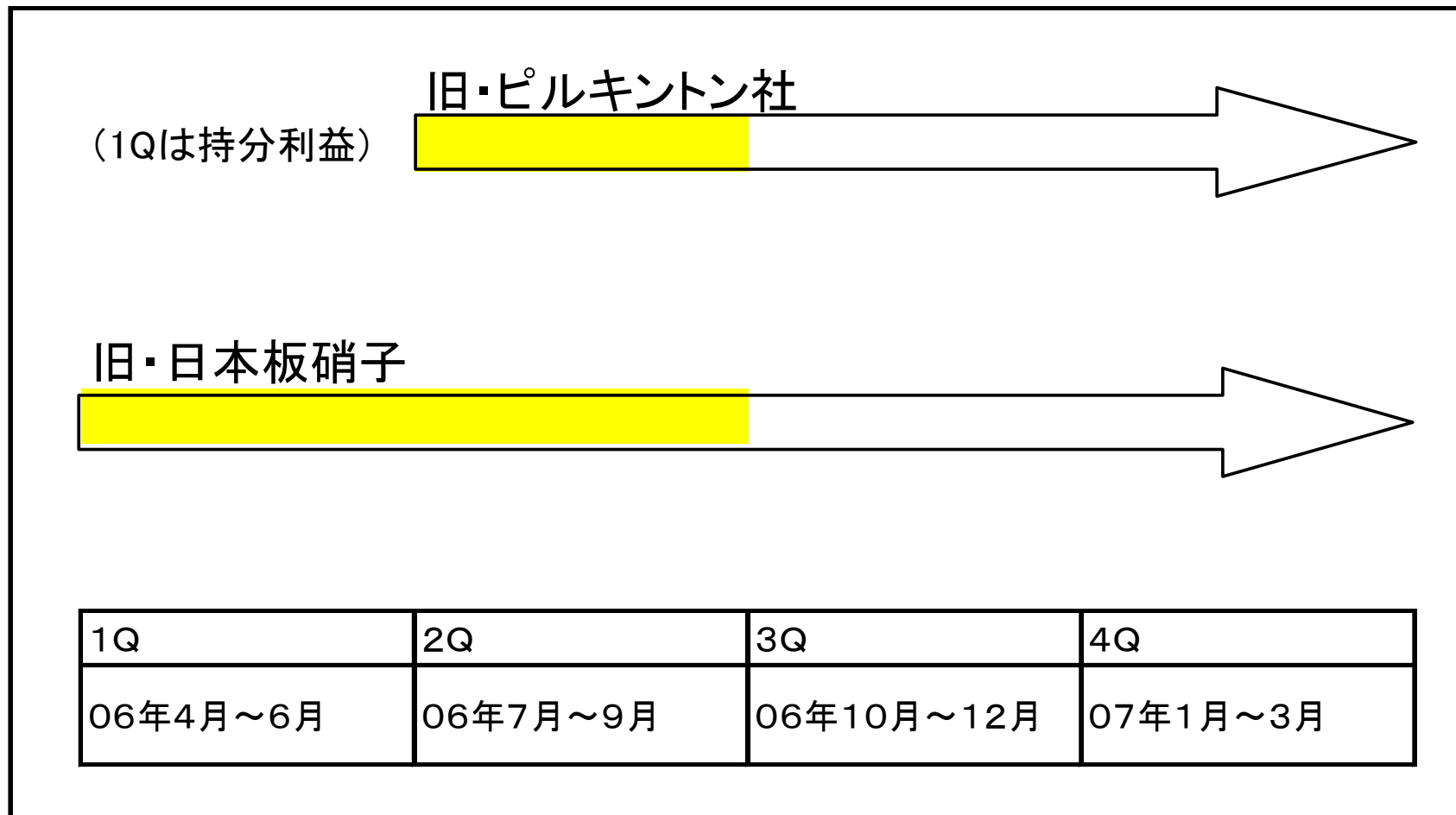
2007年3月期 中間決算について


2006年11月21日
日本板硝子株式会社

● 今期業績、及び見通しの前提

1. 損益計算書ベースでは、ピルキントン社は第2四半期から連結化。
貸借対照表ベースでは、第1四半期末から連結化。
2. これによる今中間期からの事業別、所在地別セグメントの変更
3. 買収にともなうピルキントン社B/Sの再評価と、
これによる暖簾代(営業権)、無形固定資産の計上および償却

● 今期の損益計算書上の連結期間



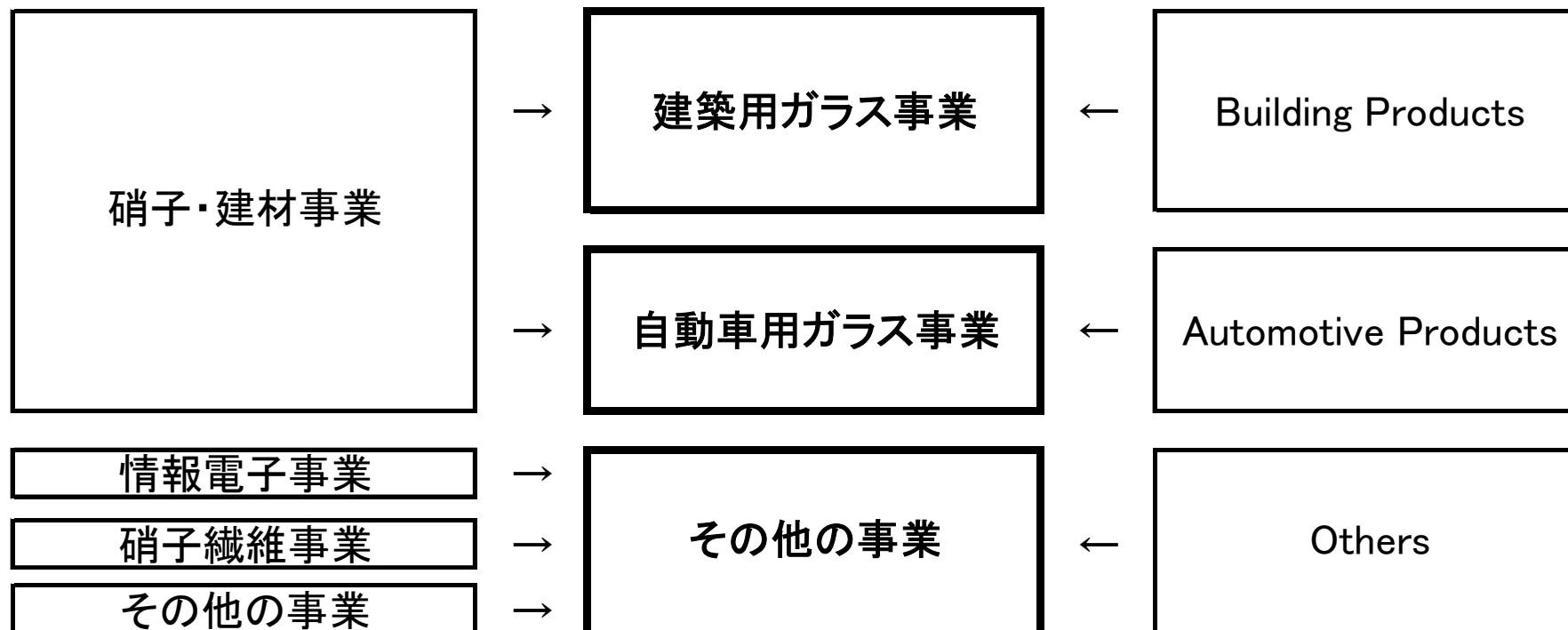
 …… 今中間期の連結範囲

● 事業セグメントの変更

昨年までの
事業セグメント

今中間期以降の
事業セグメント

ピルキントン社上場時
の事業セグメント



● 連結損益計算書

(単位:10億円)	(参考)			
	2005年 9月期	2006年 9月期	前期比	2006年 9月 期 当初計画
売上高	127.2	273.3	214.8%	270.0
営業利益	3.9	8.7	224.3%	
(営業利益率)	3.0%	3.2%	-	
営業外損益	2.1	-0.4	-18.7%	
経常利益	6.0	8.3	138.5%	6.0
(経常利益率)	4.7%	3.0%	-	2.2%
特別損益	-0.4	32.5	-8156.0%	
税引前当期利益	5.6	40.7	729.7%	
税引後当期利益	3.9	21.3	547.4%	15.0
(当期利益率)	3.1%	7.8%	-	5.6%
1株あたり当期利益	8.8円	37.7	-	

ポンド円換算レート 2006年3月期:205.2円
 2006年9月期:221.3円
 (当初計画前提) 2007年3月期:210.0円

1. **ピルキントン**
1Qは持分利益。2Qより連結化
2. **暖簾償却** Δ 約13億円、
無形固定資産償却 Δ 約40億円
税効果(税金負債の戻し) +12億円
3. **金融収支**
 Δ 14.2億円
4. **持分法投資損益**
 Δ 9.7億円
5. **日本での原油高の影響**
前年同期比で Δ 約12億円
(重油、原料、副資材を含む)
6. **特別利益**
有価証券売却益 431億円等
7. **特別損失**
買収関連費用 117億円等

● 連結貸借対照表

(単位:10億円)	2005年 9月期	2006年 3月期	2006年 6月期	2006年 9月期
流動資産	169.5	288.7	453.4	455.3
(うち、現預金)	(67.4)	(180.7)	(154.5)	(160.0)
固定資産	279.3	307.2	848.5	910.7
総資産	448.8	596.0	1,301.9	1,366.0
負債	227.6	354.4	1,022.6	1,037.5
(うち、有利子負債)	(124.9)	(236.9)	(668.6)	(636.0)
少数株主持分	2.9	3.3		
資本(純資産)	218.4	238.3	279.4	328.5
資本金	41.1	41.1	42.8	71.6
その他	177.3	197.2	236.6	256.9
負債・資本計	448.8	596.0	1,301.9	1,366.0
期末発行済株数(百万株)	443.1	443.0	448.9	564.4
株主資本比率	48.7%	40.0%	21.5%	24.0%
デッドエクイティレシオ	0.57	0.99	2.39	1.94
BPS(円)	492.9	537.9	622.3	582.0
ROE	1.8%	3.3%		6.5%
ROA	1.5%	2.0%		0.9%

ROA=(経常利益+支払利息)÷総資産

1. ピルキントン 1Q末より連結化
2. 有利子負債総額 6,360億円
6月末対比で326億円減。
3. CB 9月末残 720億円(MSCBは490億)
転換分は資本金、資本剰余金で
それぞれ305億円増
4. 暖簾 約1,100億円、
無形資産 約2,160億円
(06/9末レートでの換算ベース)
5. 財務指標
社債転換進展により、6月末対比で
株主資本比率、D/Eレシオは改善。

● 連結キャッシュフロー計算書

(参考)

(単位:10億円)	2005年 9月期	2006年 9月期	前期比	2006年 3月期
営業CF	7.2	16.7	9.5	15.5
投資CF	-6.6	-235.6	-229.0	-12.1
フリーキャッシュフロー	0.6	-218.9	-219.5	3.3
財務CF	1.3	168.0	166.7	111.2
期首現預金残	63.5	179.2	115.7	63.5
期末現預金残	66.1	158.0	91.9	179.2
(単位:円)				
1株あたり配当金	3.0	3.0	0.0	6.0

< 営業CF >

税前利益 +408億円
 有価証券売却益 △431億円
 減価償却費 +198億円

< 投資CF >

固定資産取得 △172億円
 有価証券売却 +516億円
 ピルキントン株式取得分
 △3,767億円

< 財務CF >

長期借入増 +1,687億円

● 暖簾及び無形固定資産について

- 暖簾代算出と資産再評価による、無形固定資産の計上と償却費の変化

※1㊦=200円で換算

	2006年6月末時点	今回(2006年9月末BSをベース)
暖簾 ①	2,200億円	1,010億円
無形固定資産 ②	----	1,986億円
	----	△596億円(繰延税金負債)
総額 ①+②	2,200億円	2,400億円
20年間の 平均償却額	110億円/年	120億円/年平均 (150億円～80億円)

実際は償却年数が資産内容によって異なる。

今年度(1年換算試算)は169億円、FY11(2011年3月期)は150億円を想定。

● 今回の評価算定による今期業績への影響の変化

(単位:10億円)	7月6日開示時点		今回(注2)	
	PLK社 9ヶ月分	Pro Forma 1年換算(注1)	PLK社 9ヶ月分	Pro Forma 1年換算(注1)
暖簾償却費	△8.2	△11.0	△4.1	△5.5
無形固定資産償却費	—	—	△12.2	△16.3
償却費合計 (営業利益への影響)	△8.2	△11.0	△16.3	△21.8
税金負債の戻し	—	—	+3.7	+4.9
合計 (当期利益への影響)	△8.2	△11.0	△12.6	△16.9

(注3)

(注1) Pro Forma 1年換算=ピルキントン社を12ヶ月間連結処理した仮定での試算

(注2) 金額は9/末為替レートによる換算であり、以後、決算期末レートによって再度換算を行う。

(注3) 無形固定資産は、項目によって1~20年で償却を行うため、次年度以降は順次償却費が減額される。

● 今中間期売上、営業利益実績の事業別地域別マトリクス

売上

(単位:10億円)

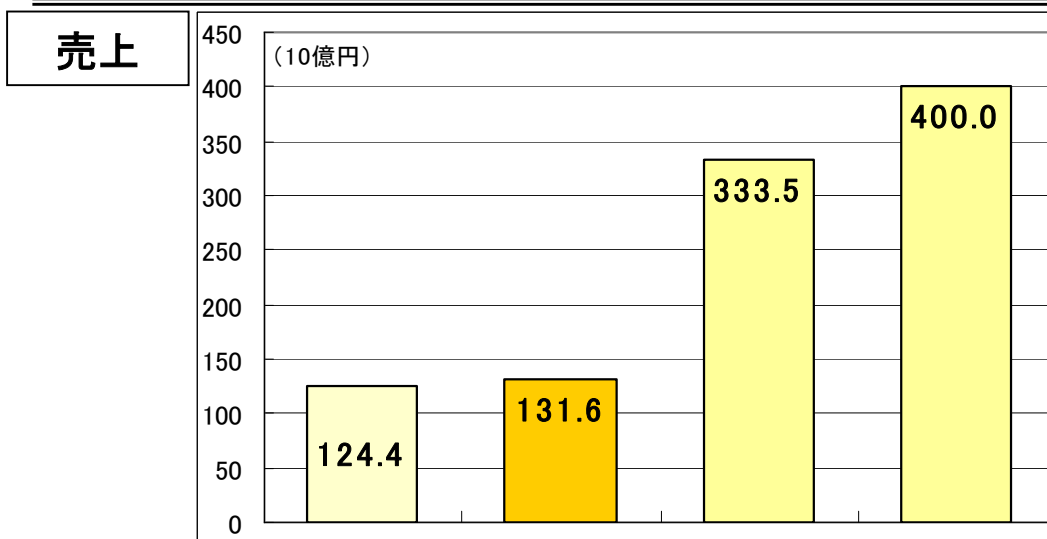
		日本	欧州	北米	その他	合計
建築用		52.4	49.2	9.2	20.9	131.6
自動車用		29.8	38.8	20.8	7.5	96.9
その他	情電	-	-	-	-	20.8
	繊維	-	-	-	-	17.2
	その他	-	-	-	-	6.8
		28.0	7.7	0.5	8.6	44.8
合計		110.2	95.6	30.5	37.0	273.3

営業利益

(単位:10億円)

		日本	欧州	北米	その他	合計
建築用		0.0	4.6	0.8	2.8	6.1
自動車用	2.0					
その他	情電	-	-	-	-	1.5
	繊維	-	-	-	-	2.2
	その他	-	-	-	-	-3.1
		0.1	-0.4	-0.0	0.9	0.6
合計		0.1	4.2	0.8	3.6	8.7

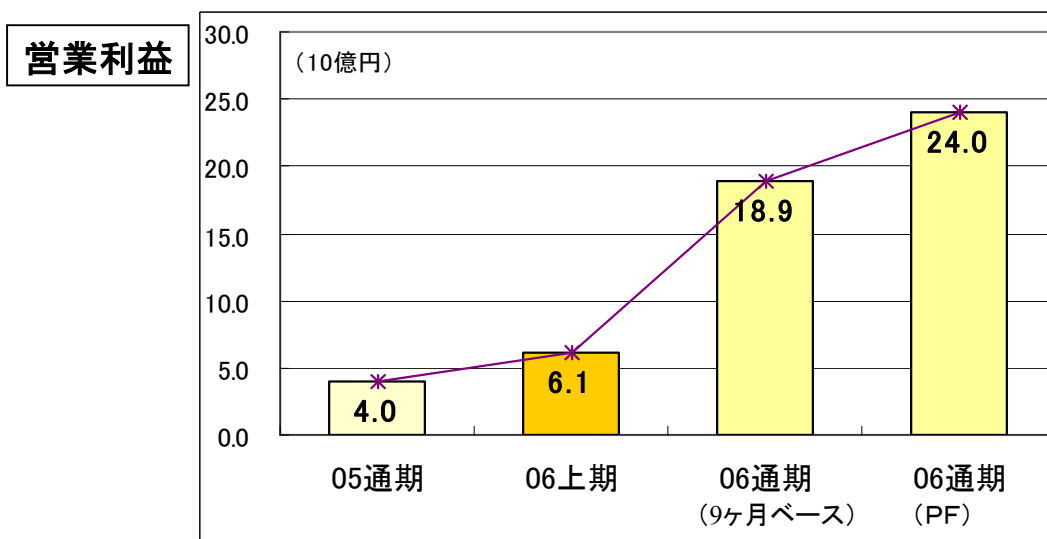
● 建築用ガラス事業 概況



＜日本＞
高機能ガラスの伸長あるも、重油高等の影響(約10億円)で減益。

＜欧州＞
ドイツなど中心に内需拡大で量、価格ともに強含み。一部で品切れの状況。

＜北米＞
主力の商業ビル向けと輸出が堅調。

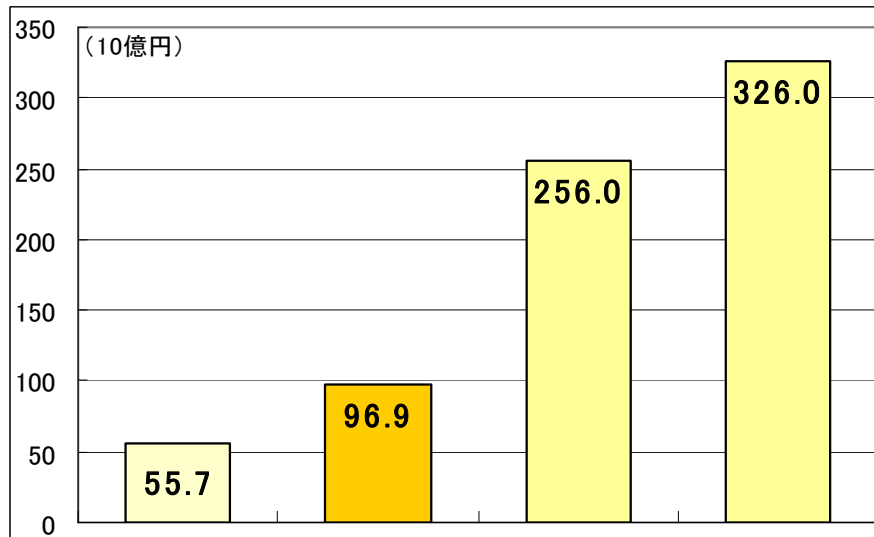


＜その他＞
南米地域が好調を牽引。
東南アジアは市況軟化。

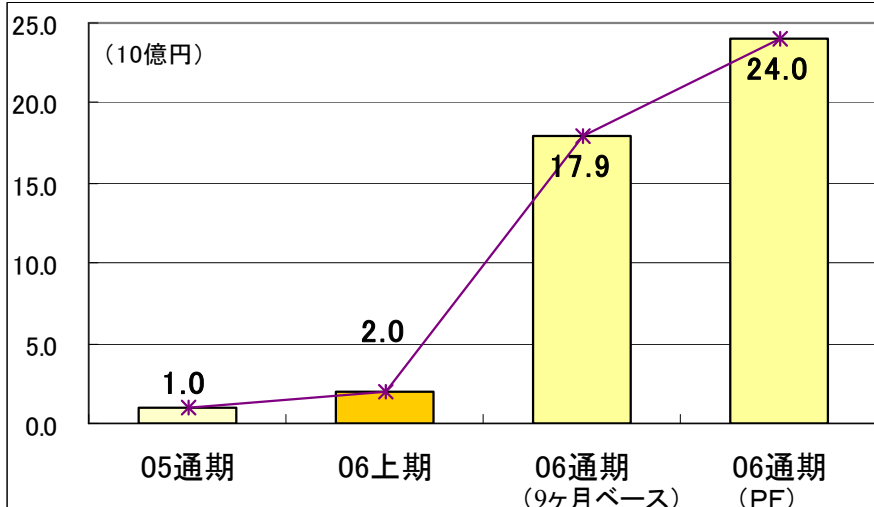
(注) グラフ上の予想値は
7/6時点・暖簾償却後ベース

● 自動車用ガラス事業 概況

売上



営業利益



<日本>

国内自動車生産が好調継続。

<欧州>

域内自動車販売は横ばいの中、PLK納入のガラスが好調。AGR(補修ガラス)も好調。

<北米>

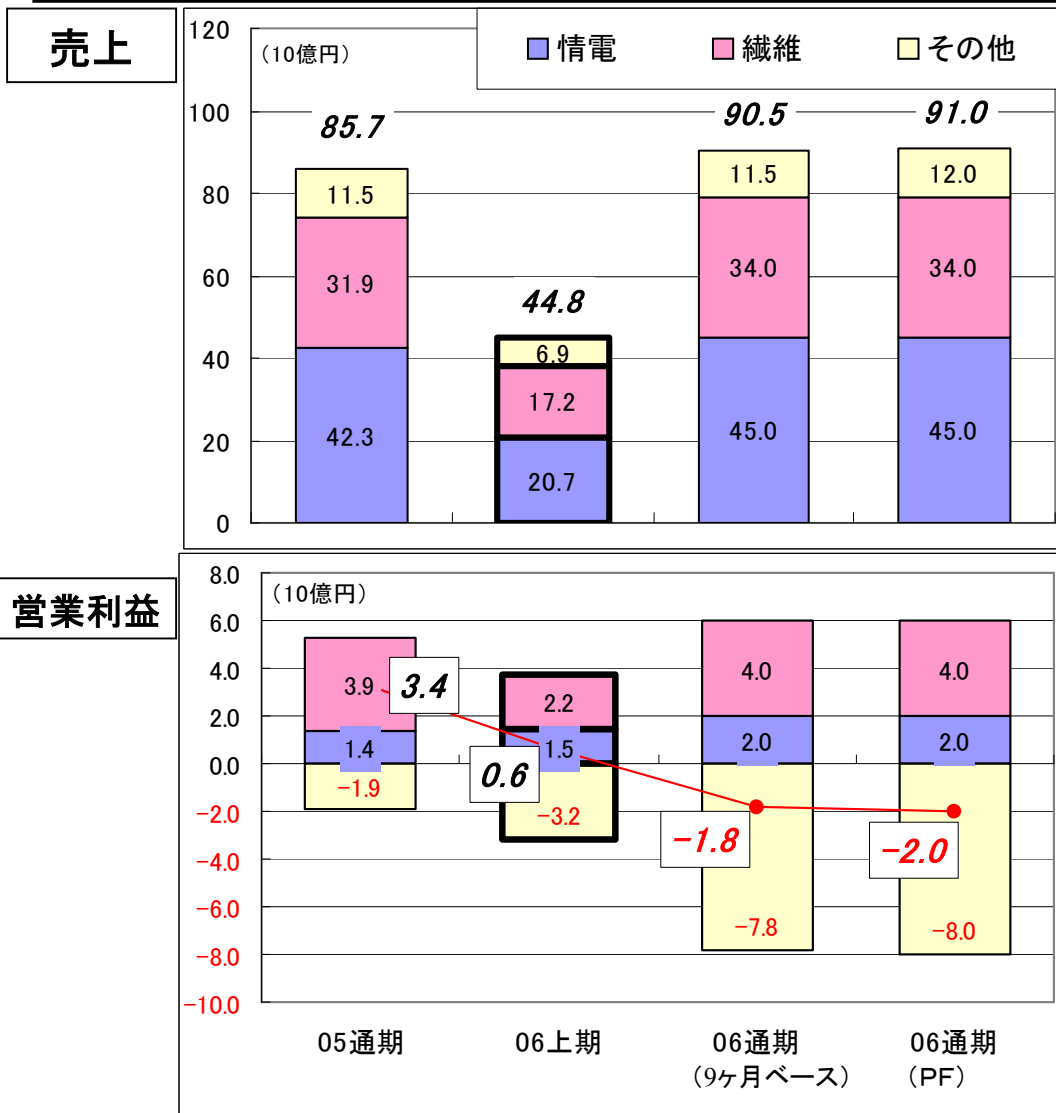
トヨタ等好調な反面、BIG3の域内自動車販売低迷の影響を受ける。一方でAGRは健闘。

<その他>

南米地域が好調を牽引。豪州は減速。

(注) グラフ上の予想値は
7/6時点・暖簾償却後ベース

● その他事業(情報電子、硝子繊維、他) 概況



＜情報電子： 前年同期比 増収増益＞
 インクジェット複合プリンタ向けレンズは順調な伸び。中小型液晶(STN,TN)用ガラスの需要も当面底堅く推移。

TFT液晶ガラス(持分適用会社: NHテクノグラス)生産性改善基調で、2Qで単月黒字転換。シンガポールで7G基板の生産開始。3Qは台湾等での市況回復見込み。

＜硝子繊維 前年同期比 増収増益＞
 エアフィルタ関連機器の需要改善。ゴムコードは引き続き伸長。メタシャインの販売も反転回復。

＜その他＞
 NSG: システム関連費用増
 ピルキントン: エンジニアリング売上の減少

(注) グラフ上の予想値は7/6時点

● <ご参考> 7/6公表時の今期連結業績予想

現時点で、通期業績予想の修正は行わない。

(単位:10億円)	07年3月期 見込 (P社 9ヶ月分)	07年3月期見込 (Pro Forma 1年換算)
売上高	680.0	817.0
暖簾償却費	-8.2	-11.0
営業利益	35.0	46.0
営業外収支	-10.0	-10.0
経常利益	25.0	36.0
特別利益*	42.2	0
特別損失*	5.5	0
税前利益	61.7	36.0
当期純利益	30.0	19.0

(注) Pro Forma 1年換算=今期のみの一時費用(特別損益等)を除き、ピルキントン社を12ヶ月間連結処理した仮定での試算

セグメント別内訳 (10億円)

		(PLK社9ヶ月分)	(PF 1年換算)
売上高	建築	333.5	400.0
	自動車	256.0	326.0
	情報電子	45.0	45.0
	硝子繊維	34.0	34.0
	その他	11.5	12.0
	計	680.0	817.0
営業利益	建築	18.9	24.0
	自動車	17.9	24.0
	情報電子	2.0	2.0
	硝子繊維	4.0	4.0
	その他	-7.8	-8.0
	計	35.0	46.0

(注)暖簾償却は建築、自動車セグメントに半分ずつ按分される前提

* 詳細後述

● 転換社債型新株予約権付社債の状況(11/16現在)

1. 既に転換した額 710億円／総額 1,100億円

- ・転換株数 142.3百万株
- ・平均単価 499円
- ・転換率 65%

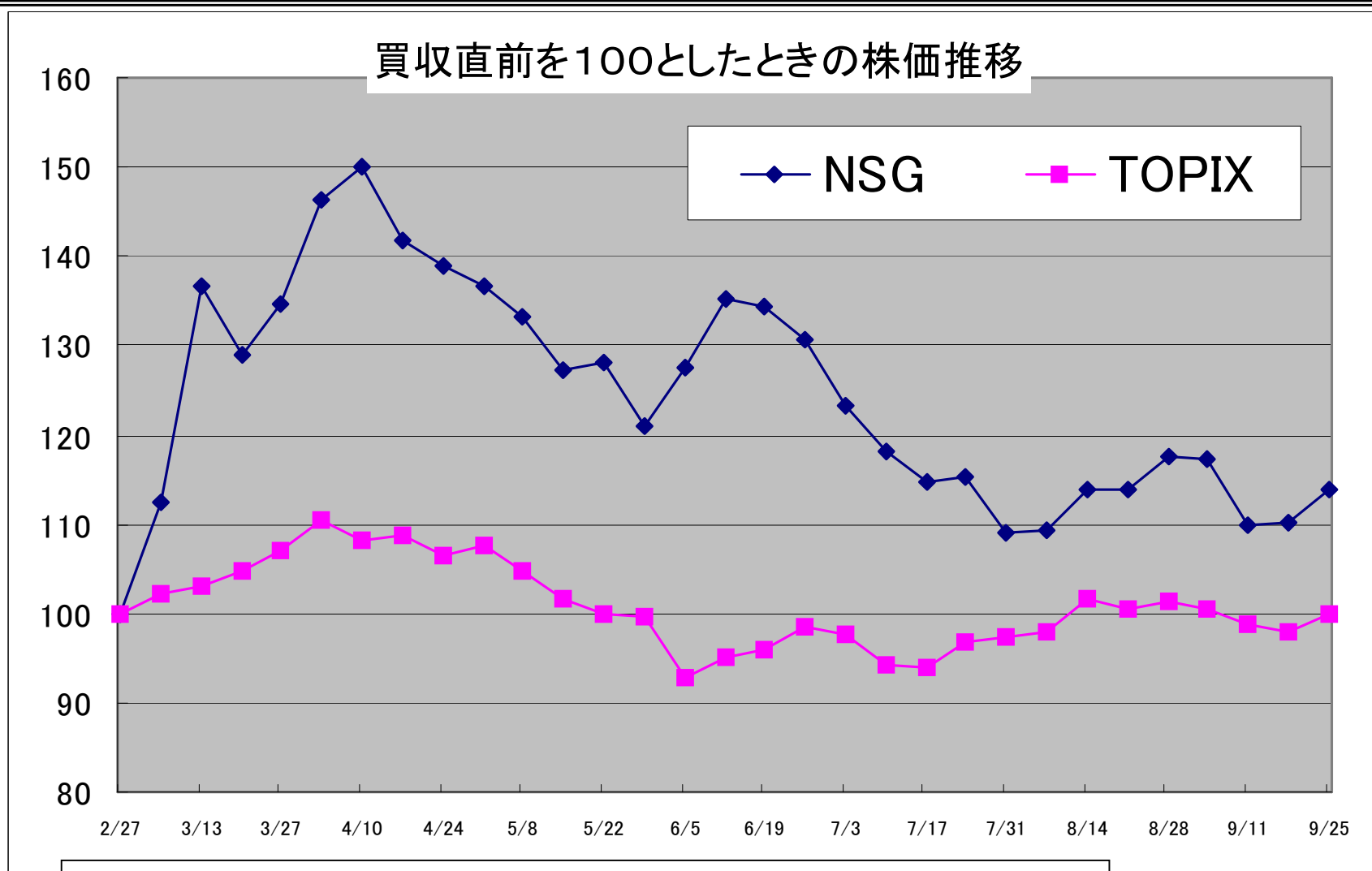
2. 今後の転換されうる株数の幅

- | | |
|---------------------------|----------|
| ①上限価格(@1010.4円)の場合 | 38.6百万株 |
| ②11/16現在の転換価格(@478.0円)の場合 | 81.6百万株 |
| ③下限価格(@336.8円)の場合 | 115.8百万株 |

3. すべて転換後の総株数の幅(発行前の株数 443.9百万株)

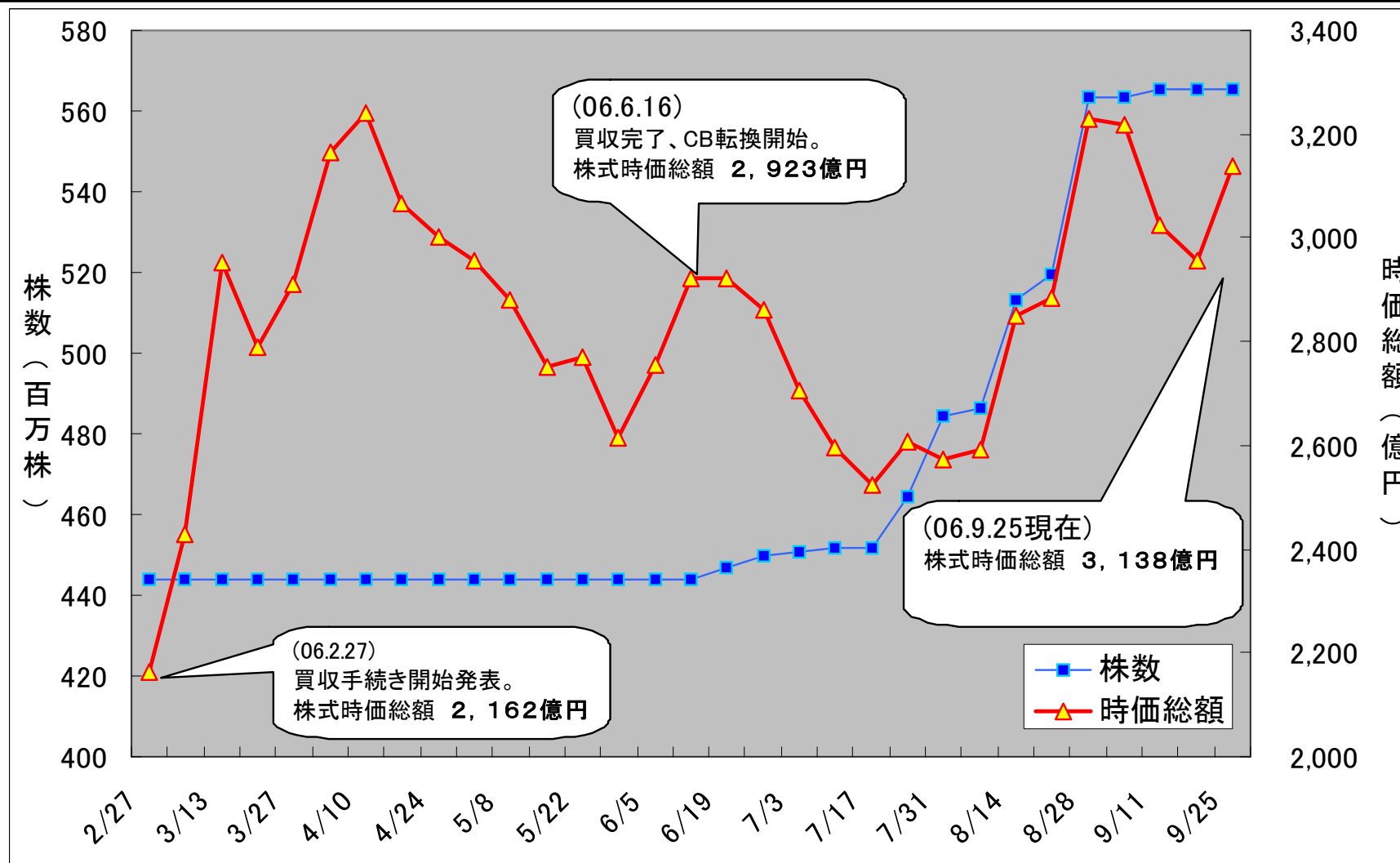
- | | |
|-------------|----------|
| 上記①の場合(最少値) | 624.8百万株 |
| ② | 667.8百万株 |
| ③(最多値) | 702.1百万株 |

● 当社株価について



社債発行アナウンス直前(2/27)に比べ、株価は常にTOPIXを上回る。

● 株数、時価総額の推移



社債発行アナウンス直前に比べ、株価時価総額は大きく上昇。

● <ご参考> 前提指標

		2005年度 上期実績	2005年度 通期実績	2006年度 上期実績	2006年度 通期 計画前提値	
為替(NSG取引分)	(円/US\$)	111	113	115	113	(当初計画)
為替(英ポンド期末レート)	(円/GBP)	199	205	221	210	(当初計画)
減価償却費	(10億円)	6.0	13.0	19.8	50.0	(PFベース)
設備投資	(10億円)	9.9	21.2	18.4	50.0	(PFベース)
研究開発費	(10億円)	3.6	7.6	5.1	—	
フリーキャッシュフロー	(10億円)	0.6	3.3	-218.9	—	
有利子負債	(10億円)	124.9	236.9	636.1	—	
人員	(人)	13,653	14,181	38,578	—	

● ご注意

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。

その要因の主なものとしては、主要市場（日本、欧米、アジア等）の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。